

IV 学校教育の内容と 基本的な考え方

社会奉仕等に関わる 体験活動を生かした 学習の目的

9 学校教育全体で進める教育活動 (8) 社会奉仕等に関わる体験活動を生かした学習

社会奉仕等に関わる体験活動は、共に助け合って生きることの喜びを体得する中で、自らを豊かにし、進んで他に奉仕しようとする態度を育てることを目指すものであり、人、社会、自然と関わる直接的な体験活動を通じて、青少年の望ましい人格形成に寄与する。大人にとっても、家族や周囲の人々、地域や社会のために何かをすることで喜びを感じるという、人間としてごく自然な温かい感情を湧き起こし、個人が生涯にわたって、「よりよく生き、よりよい社会をつくる」ための鍵となる。

また、実施に際しては、発達の段階に応じた活動の実施、興味関心を引き出し自発性を高める工夫や、生徒会等を活用したリーダーシップの育成、活動の適切な評価等、自発的なボランティア活動等の高等学校における単位認定等に配慮して取り組む必要がある。

具体的な活動例

- 地域社会への協力や学校内外のボランティア活動
- 各種の生産（飼育栽培）活動
- 校内外の美化活動 等

実施上の留意点

発達の段階に応じた適切な活動の機会の提供が行われるよう、自校の教育目標や地域の実情を踏まえた上で、学校としての活動のねらいを明確にし、現状の教育活動全体を見直した計画になるよう、

- 1 学校行事等の特別活動、総合的な学習の時間・総合的な探究の時間をはじめ、各教科等の学習指導及び部活動等の課外活動等教育活動において適切な位置付けを行うこと。
- 2 各校種におけるそれぞれの取組に継続性をもたせ、発達の段階に即して活動の内容や期間等を工夫すること。
- 3 各教科等における学習指導との関連を図ること。
などが求められる。

特に教科担任制を取り入れている小学校高学年や中学校・義務教育学校及び高等学校においては、教科担任の教員間の緊密な連携・協力が重要である。